

「日本は多角的な安全保障ネットワーク構築を」

Nicholas Eberstadt, Henry Wendt Scholar, AEI: 次の数分間でぜひ皆様方に考えていただきたいと思ひまして、日米の安全保障関係に関して、三つの問題提起をしたいと思ひます。一つは差し迫った問題、二つはもう少し先のことですけれども、同じくらい厄介かつ根本的な問題です。

日米関係における第一の問題は、北朝鮮の問題です。この1年間心強く感じましたのは、ペリー報告の枠組みの下で、南北朝鮮の間の関係が進展したことです。しかし北朝鮮に関与しようとする機運は尽きようとしている、しかも非常に早く尽きつつあると思ひます。これはアメリカの政権が交代したからではなくて、北朝鮮の安全保障問題の性質ゆえ、それと相互主義の問題ゆえです。

過去12カ月に、北朝鮮・韓国間および北朝鮮・米国間のムードには重要な進展が見られ、また、北朝鮮・日本間にも、程度は小さいですけれども、進展が見られました。が、それにもかかわらず、北朝鮮は相手側に対して、未だ根本的なお返しのジェスチャーを示していない、という事実は変わりません。それでは安全保障上の重要問題とは何でしょうか？ 安全保障上の重要なジェスチャーとは？

一つには、韓国の正当性を認めること、すなわち韓国が国家として朝鮮半島に存在する権利を、ピョンヤンが認めるということです。つぎに北朝鮮が、透明かつ検証可能な方法で、大量破壊兵器の計画の凍結を行うことです。これにはノドン、これは皆さんのほうがよくご存じの、日本を簡単に攻撃目標にできるミサイルですが、この計画も含まれます。最後にDMZの前線近くに配備されている強大な北朝鮮軍である朝鮮人民軍の撤退と縮小です。

これらの問題を考えると、どれ一つを取っても、前進のためには、北朝鮮の50余年にわたる安全保障政策の停止のみならず、逆転が必要とされることが理解いただけると思ひます。そればかりではありません。三つの分野のいずれにおいても、我々が前進と考えるものは

本質的に、北朝鮮の国家としての存在基盤を揺るがすこととなりますので、この三分野における前進を引き出すのは、かなり難しいかもしれません。

次に、東アジアにおけるアメリカの安全保障の構造に見られる潜在的な脆弱性と不安定さについて申し上げたいと思います。これは残念ながら、これまで我々が十分に触れてこなかった問題です。

この問題が頭に浮かんだのは、今朝の新聞でおもしろい記事を読んだからです。韓国の学童に、「どの国が友好的で、どの国が非友好的か」と質問したところ、調査対象となった子供の40%が「韓国に対して世界で最も友好的な国は北朝鮮だ」と答えたそうです。そこで、ある疑問が浮かびます。もし北朝鮮がもはや脅威として認識されていないのなら、その認識が正しいか否かはともかく、米軍が韓国に駐留し前方展開する論理的根拠は何なのか？ この疑問に対して韓国国民も米国国民も自分や相手が納得のいく答えを出すことができなければ、駐留米軍並びに前方基地は、近いうちに韓国から消えるのではないのでしょうか。しかし、韓国に駐留米軍や米軍の前方基地がないという状況になったとして、日本はその場合、東アジアで唯一の、米軍と米軍の前方基地を持つ国になることに合意するのでしょうか？ 皆さんは日本人で私は違いますが、この疑問を呈すること自体が疑問に対する答えのように、私には思えます。

さほど頭を働かせなくても、事態がどんどん進んで、アメリカの駐留軍、並びに前方基地が半世紀ぶりに東アジアから姿を消すという状況が想像できると思います。それは、アメリカの安全保障、経済安全保障、並びに日本の安全保障、経済安全保障にとってゆゆしき事態になるでしょう。我々の同盟諸国は残念なことにこれまで、このことが及ぼす潜在的なリスクを、十分に考慮してこなかったと思います。

最後に申し上げたい点は、友好国同士、友人同士は重要な問題について、それがデリケートな問題でも、率直に話し合えるようであるべきだということです。これは、いわゆる日

本問題の性質、並びに東アジアと太平洋地域における多角的な安全保障のきずなに関係があります。例えば西ヨーロッパと NATO の同盟のことを考えてみてください。

NATO 同盟は 20 世紀において、そして、多分近代史においても、最も成功した多角的な安全保障機構の一つだと、私は思います。なぜ NATO 同盟はあれだけのことを達成することができたのでしょうか。第一の理由は、ヨーロッパではドイツが多角的な安全保障同盟、安全保障ネットワークの中心に存在したからです。ドイツがこの同盟関係の中心に存在することができたのは、ドイツがヨーロッパのドイツ問題を解決したからです。ドイツが普通の国になったので、西ヨーロッパ諸国は安全保障関係を深めることに進んで協力したのです。

残念ながら、正直に申しまして、日本問題に関してさまざまな改善が見られるにもかかわらず、現時点でも東アジア太平洋地域におけるアメリカと他の民主主義国家との間の安全保障関係は、そのほとんどが、いわゆるハブ&スポークであり、多角的な安全保障ネットワークではないといわざるを得ません。これは、いわゆる日本問題があるからです。すべてをアメリカに頼った二国間安全保障関係は必ずしも、深まりつつある多角的な安全保障ネットワークより優れているとはいえません。

私たちはニュースで取り上げられる事件を、それがあたかも文化的な問題とか教育上の問題であるかのように見てしまいがちですが、実はそれだけではないかもしれません。例えば、日本と一部の近隣諸国との間で起こっている、いわゆる教科書問題は、そうした問題や安全保障問題の一部を体現していると思います。今後日本が普通の国になって、多角的な安全保障ネットワークを構築し、同盟関係を強化していくためには、そうした問題を考慮していかなければなりません。